

第2分科会 研究課題「子供の発達に関する課題」

研究主題 「児童生徒の主体性を育む小中連携のあり方」

～地域や関係機関との連携と校内指導・支援体制の確立を目指して～

西諸支会 小林市立須木中学校 前田 泰博

1 主題設定の理由

Society5.0に向けて社会が大きく変わろうとしている中、予測困難な社会への対応やウェルビーイングの理念の実現が求められている。

本市においてもこれから社会に対応できる持続可能な社会の担い手として、たくましく未来を切り拓く資質・能力を備えた児童生徒の育成を図らなければならない。そのためには子どもの発達段階に合わせた課題を与え、乗り越えさせることによって主体的に学習に取り組む「学びに向かう力」を高めたり、より良い生活や人間関係を形成するための「人間性」を身に付けさせたりしていくことが必要である。

そこで小学校から中学校への発達の段階的な過程をふまえた適切な支援を行っていくことで、子どもの学力や生活の質が向上していくことをねらいとし、本主題を設定した。

2 研究のねらい

教頭として、発達段階に応じた学力向上や生活習慣の改善に向けて、教職員や家庭、地域の方々に対し、どのようなアプローチができるか、各校の取組や各校区における方策についてまとめる。方策を全体で共有することにより、共通の視点となるものを見いだし、小中連携しながら実践へとつなげていくことをねらいとする。

3 研究の概要と成果

(1) 研究内容

子どもの発達に関する課題点についての各校区における方策をまとめ、実践へとつなげる。

(2) 研究の実際

① アンケートにより本年度の研究で取り組み内容について明らかにした。

ア 確かな学力の確実な定着に関わること

- ・ I C Tを効果的に活用した授業改善への取組
- ・ 家庭教育力の向上や家庭学習の充実に関わる取組

イ 児童生徒の健康・体力の増進に関わること

- ・ スクールカウンセラーや関係機関と連携した不登校児童生徒への組織的な対応

ウ 生き抜く力やこれから求められる資質・能力の育成に関わること

- ・ 情報モラル、ネットリテラシー、メディアリテラシーに関する教育の充実

エ 児童生徒の発達を支える教育課題に関わること

- ・ 困難を抱える多様な児童生徒の対応と校内体制、指導のあり方
- ・ 特別支援教育やインクルーシブ教育システムの充実
- ・ 教師の授業研究や児童・生徒と向き合う時間の確保

上記の研究内容から、特に喫緊の課題と考えられる内容へ絞り込み、地域や関係機関との連携や校内の組織体制をもとに、具体策について協議し、今後の対応策としてまとめた。

グループ協議ではおおよその学校規模に応じて中学校区ごとにA・B・C・Dの4班を編制した。

4 本年度の研究計画

第1回	本年度の研修の概要
第2回	学校財務マネジメント
第3回	I C Tを効果的に活用した授業改善への取組
第4回	家庭教育力の向上や家庭学習の充実に関する取組
第5回	子どもと向き合う時間を確保するための教育課程の編成・業務内容の効率化
第6回	S Cや関係機関と連携した困難を抱える多様な児童生徒への組織的な対応
第7回	研究のまとめ

※ 第6回と第7回の内容は本まとめには含まれない。

※ 学校の金銭関係の管理全般における体制や方法について喫緊の課題であると捉え、第2回目は事務職員と合同で財務マネジメント研修を実施した。

5 内容の考察と今後の方策

ア 第3回「ICTを効果的に活用した授業改善の取組のための方策」

グループ協議の中ではICTやAIの活用について、校務や授業の改善に向けた方策について協議を行った。生成AIの活用という未知ともいえる分野についても今後の可能性を見据えて意見を出し合うことができ、様々なAIソフトについても共有できた。

- ・ ICT機器を用いた教師の活用能力について差が見られる。SKYMENUやTEAMSなどのアプリを年齢層に問わずに活用できるようにする。
- ・ 若手の教員を中心にSKYMENUが活用されている。AIドリルやAIテストの活用も前向きに検討する。
- ・ ICT委員会の設置や任意のICT活用研修を行う。
- ・ 校務DXに伴いペーパーレス化を推進する。
- ・ 安全点検や行事反省、出欠連絡、健康チェックなどにformsを活用する。
- ・ Googleチャットやカレンダーを活用し、予定の共有を行う。

<生成AIについて>

- ・ 生徒がChatGPTを活用していくためには校正をしたり、より具体的な回答を引き出すために命令文として何をキーワードにするかを学ばなければならない。
- ・ 便利ではあるが、活用に際しての表と裏の部分を理解して使わせる必要がある。

イ 第4回「家庭教育力の向上や家庭学習の充実に関する取組」

「家庭教育力の向上」、「家庭学習の充実」のあり方を検討した。保護者の理解と協力が必要な分野であり、学校の取組に比例して成果が明確に出るものではなく、どの学校でも方策に苦慮している状況である。家庭学習についてもタブレットPCやAIの活用、学力テストの「CBT方式」の導入など、従来の方法からの変化に対応する必要性についても確認した。

- ・ 家庭に対してノーメディアデーやメディアコントロール週間を実施する。
- ・ キャリア教育の充実やキャリアサポートセンターを活用する。
- ・ 地域間で家庭へのきまりごとを統一する。
- ・ 経営ビジョンに沿った学校便りや学級通

信を発行する。

- ・ 家庭で睡眠を十分に取らせることも重要。
- ・ CBT方式に対応するためにタブレット操作のスキルを向上させる。
- ・ 個への対応にはデジタルドリルの活用が有効だが、学習内容の定着という点では課題があるため、従来のやり方と併用して行う。

ウ 第5回「子どもと向き合う時間を確保するための教育課程の編成・業務内容の効率化」

グループ協議の中では「各学校における教育課程編成の見直しについて」及び「業務内容の見直しや効率化について」の2つの視点から取り組む内容の共有を行った。

- ・ 予備時数を減らす、午前中5時間授業で、8時15分からは授業が始められるようにするなどタイムマネジメントを行う。
- ・ 週29コマを28コマに変えたり、休憩時間の分割をするなど時間の有効活用を行う。
- ・ 学校の開錠を7時50分以降にし、朝の会は5分に短縮する。
- ・ 職員研修はテーマをそろえて個人研究を行う。
- ・ 朝自習カットをし、職朝は月曜に行う。
- ・ 行事では新任職員と2年目以上の職員との視点が違うため、その都度見直しを行い、効率的な融合を図る。
- ・ TEAMSやPDFを活用して職員会の資料をあげる。
- ・ C4thの集計機能を使って行事反省をまとめる。
- ・ QRコードを用いた保護者アンケートを実施する。

6 成果と課題

○ 子どもの発達に関する課題を多面的・多角的な方向から捉え、小中連携を基盤として話し合いを行うことにより、それぞれの学校区の実態に応じた教頭の役割について全体で共有することができた。

○ ICTの活用や教育課程の見直しなど、各学校の実態に置き換ながら実践へとつなげることができた。

● 要因や背景が多様化・複雑化している不登校への対応について、関係機関と連携しながら家庭にどうアプローチしていくか、市内の学校で情報を共有しながら研究を深めていきたい。